

Die Eiche

ディ アイヘ
<http://www.jdg-chiba.com>



Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第2ワールドナースィングホーム内
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

本誌 創刊以来 100号に!!

協会の慰霊祭、活動、会員の交流を伝えて

確かな歩みを未来へ

Eiche 100号特集 「ドイツ軍人慰霊祭」開催を目的にスタートした千葉県日独協会が協会通信を発行して4月、遂に100号に達した。1997(平成9)年の第1号から19年。協会の多彩で豊かな活動と会員たちの交流を伝え、記録してきた。詳細は3-4頁の「Die Eiche 100号一覧」をご覧ください。長年、誌面の編集を一手に担ってきた金谷誠一郎・専務理事と、宗宮好和・会長に寄稿をお願いした。

＜仕事との両立に悩み、家族に支えられて＞

金谷誠一郎・専務理事



千葉県日独協会は1996年6月に発足しましたが、このDie Eiche 1号が発行されたのは1年後の1997年6月1日付けとなっています。

なぜ、1号発行までに1年を費やしたかは私自身も定かではありません。因みに当初編集を担当していたのは、私と同じく専務理事を務めておられた船橋市役所の職員、南部擁司氏でした。彼は私とは異なりこのような通信誌の編集手慣れていて、私には羨ましく思えたものでした。ただ残念ながら、南部氏はほどなくして退会されたために、行事の企画、実施を担当していた私が通信の編集発行業務を引き継ぐことになりました。

ところで、この「Die Eiche」という名前の由来については、ご存知の方も多いと思いますが、1996年11月17日(日)の「ドイツ国民哀悼の日」に、千葉県日独協会の第3回日独合同慰霊祭が営まれた際に、「安らぎの木」として植樹されたドイツ柏(Die Eiche)に由来します。そして、この若木は1936年のベルリンオリンピックの三段跳びで優勝した田島直人氏がシュバルツバルト(黒い森)産の苗木を持ち帰り、京大理学部付属の植物園で育てられ、同グラウンドの北西角に移植されました。



100号に寄せて

宗宮好和・会長

協会通信「Die Eiche (ディ アイヘ)」がついに創刊100号を迎えました。いま創刊号から読み返してみると、慰霊祭、総会、講演会、講習会、音楽会、旅行ほかの多彩な活動が克明に記録されていることに感動を覚えます。毎号のように掲載される集合写真のなかの皆さんの顔は緊張のなかにも和気藹々の雰囲気醸し出すと同時に、その顔ぶれの変化は20年という時の流れを物語っています。また、改めて気づくのは講演会の講師やイベントの来賓には各界で活躍された多くのビッグネームが見られることで、当協会のネットワークの広さが誇らしく思われます。



協会創立10周年記念の「Die Eiche 総集編 (I)」にならって、今秋には20周年記念の「Die Eiche 総集編 (II)」が作成・配布されます。当協会のホームページでは、創刊号から最新号までの「Die Eiche」をいつでも読むことができます。91号の「第20回慰霊祭記念号」からは構成、見栄えとも一新されました。90号まで長きにわたって編集を担当された金谷誠一郎専務理事に厚く御礼を申し上げます。

また、新版「Die Eiche」の編集と構成に奮闘されている田中正延・理事に感謝とともに心からエールを送りたいと思います。「Die Eiche」は当協会の宝です。

↑＜折々の活動を記録して伝えた Eiche＞

▽ 「田島オリンピック・オーク」として親しまれ、高さ20メートルを超える大木に成長したどんぐりから育てられたものでした。

当日、贈呈者の田島麻夫夫人と大橋和夫船橋市長の手で植樹された時の光景は、今も覚えています。若木は高さ1メートル程で、現在の10mもある樹を見ると、随分逞しく育ったものと感慨深いものがあります。

(2面につづく)

(1面・金谷専務理事の寄稿つづく) この京大のオークは、その後2008年に、カジノナガキクイムシの被害に遭い、周囲の被害拡大防止のため伐採されてしまいました。しかし、京大陸上部OBらでつくる蒼穹(そうきゅう)会が再生に向けて動き農学部敷地内に、初代の挿し木から育てたとみられる若木があり、遺伝子解析などで同じ木であることを確認。2015年2月に初代が植えられていた場所へ移植され、この2世は、昨年5月で高さ3メートル、幹回り20センチほどに成長しているとのこと(京都新聞2015年5月2日)。

さて、Die Eicheの編集発行業務を任された私は、当時まだ50代半ばで、会社の仕事は原料の買い付けという、国際商品先物相場と為替相場を連日追いかけるもので、神経を使う毎日。ということで、会社と当協会の仕事を両立させるのに苦労しました。特に、Die Eicheの編集に当たっては、「当協会の記録を残す」ことを目標としておりましたので、A4の両面に2か月分の情報を入れるとなると、記事の数や文字の数に制限が出来るわけで、それなりに工夫が必要でした。協会通信の原稿を書いた後は、初めの3年間は娘に、その後は息子達に誌面作りなど、いろいろと手伝ってもらいました(勿論、お小遣い付きです)。そして、印刷が出来上がり発送となるわけですが、これがまた大変な仕事でした。現在では、船橋市のFACEという施設に役員たちが集まり協会通信を折りたたんで封入、宛名ラベルを貼るのに約1時間もあれば終了、後は宅配業者に持ち込むだけです。しかし、FACEが出来るまでは、狭い我が家で家内と2人でこの作業を行い、しかも最後に切手を貼らねばならず、3~4時間は掛かったものです。しかし、当協会も今年で設立20周年。10年前にDie Eicheの総集編を作成する際に、当時の平尾会長は、「今後もこの会報紙が長く続くように『Die Eiche 総集編(Ⅰ)』としましょう」と名付けられましたので、今秋『Die Eiche 総集編(Ⅱ)』が発行されることとなります。

91号からは、元大手新聞社での豊富な経験を生かしてカラー版で魅力的な編集をしておられる田中正延・理事の尽力で、この協会通信が末永く発行されることを祈念して筆を置くこととします。

機関誌創刊時、
編集に携わった
南部擁司氏に聞く

Q: 南部さんが千葉県日独協会と関わりを持ったのはどんなきっかけで、いつ頃からでしたか。

A: 私はもともと社会教育が専門で、その資格で船橋市の教育委員会に入っていたのです。公民館などでいろいろな企画やイベントをしていて、チターの内藤敏子先生(当協会理事)を知っていました。確か1993(平成5)年頃、内藤先生から「会わせたい人がいる」と、電話がありました。それでお会いしたのが歯科医の加藤吉昭先生(千葉県日独協会の初代会長)でした。

Q: それで、協会創立に?

A: いや、内藤先生のチター公演を加藤先生としているうちに『ドイツ軍人慰霊祭』をやりたいので、手伝ってくれないかと。(1995年の「慰霊碑建立40周年記念慰霊祭」の)案内状とか事務処理は私がやりました。慰霊祭が終わった後、加藤先生が今度は「千葉県日独協会を作りたい」と私に話された。他の方にも話したのですが、とにかく加藤先生の周りにはすごい人たちがいた。その人脈が多彩だった。私は加藤先生が好きだったし、「手伝わざるを得ないな」と。この協会設立の事務的なことは私がやりましたよ。表に出たくはなかったけど、専務理事にさせられて。

Q: 協会創立後、通信誌Die Eicheが発行されるまで1年かかりましたね。何か、事情がありましたか?

A: その余裕がなかったのではないのでしょうか。 7

通信誌発行の話は花井清さん(当協会、公財・日独協会顧問)辺りから出た。でも、誰がどうやって作るんだって(笑い)。



Q: それが南部さんに回って来た?

A: そうなんです。会員が協会の活動の中身が分からないのでは困りし、会員と協会を繋ぐもの、つまり通信誌は必要じゃないか、と。協会は次第に、通信誌を重要視するようになりました。

Q: 南部さんはどうやって編集をしましたか?

A: 私のパソコンに、新聞を作るソフトがあってそれを使った。私は、原稿は書かない。花井さんたちが校正してきた原稿をもとに私がEicheを作る。題字も花井さんの案をもとに私がフォントで作ったかなあ。

Q: 発行間隔に多少、バラツキがありましたね。

A: 原稿が集まらなかったからじゃないですか。私は船橋市教委の仕事をしていて、すべてボランティアでEicheを作りました。加藤先生に頼まれたから苦にならなかったし、イヤでもなかったですね。

Q: 編集で心掛けたことは?

A: とにかく、原稿が早く集まって、早く終わりたいと。それだけでした。

Q: 加藤会長が亡くなられた(2001年4月)後に、協会をお辞めになった?

A: 私は加藤先生が好きだった。先生のために、お手伝いをしました。もう(私の役目は)終わった、と。

<Die Eiche 100号一覧>

号数	発行日	主 な 記 事	講演会(題)&講師
1	1997.6.1	年次総会開催/会員交流会(チター演奏)/講演「ドイツにおける日本研究」	Dr.日地谷キルシュネライト・ベルリン自由大教授
2	8.1	チター演奏とドイツパン・ワインを楽しむ集い/ハンドボールJP開催	
3	10.1	ハンドボール・ドイツチーム役員交流会/機関誌Die Eicheの由来	「ドイツ雑感」木村敬三・元駐独大使
4	1998.6.1	年次総会開催/清酒醸造元見学/講演「民富まずして国富まず」	織田正雄・NRW州駐日代表
5	8.20	チター演奏とドイツビール、ワインを楽しむ集いドイツ語受講生との懇親会	
6	10.15	”ちば文化祭'98”に出展参加/大盛況のドイツ人学生との房総バス旅行	「最近の国際経済情勢」久保田信也・会員
7	1999.1.8	文化講演会「丸山ワクチンの現況と展望」/ドイツ軍人追悼慰霊祭	藤田敬一郎・日本医科大講師
8	4.1	「御宿町歴史民族資料館」見学と懇親会/催し案内	
9	6.25	年次総会開催/名誉会員・東山魁夷画伯を悼む/砂糖工場見学	「ドイツの大学で・・・」Dr.レーケン女史
10	8.25	チター演奏会とワインの会/イタリー・ドイツの教会で歌う	
11	10.25	講演会「今日の国際情勢」とビール祭り/「ドイツ周遊の旅に参加して」	田久保忠衛・当協会副会長
12	2000.1.15	特別史料展「ドイツ兵の見たNARASHINO/ドイツ軍人追悼慰霊祭	「化学物質と汚染」美浦義明・会員
13	4.1	特別史料展「ドイツ兵の・・・」開催/ドイツ語講習会の講師夫妻帰国	
14	6.15	年次総会開催/寅さんの帝釈天・矢切の渡しを訪ねて(ハイキング)	「冷戦後のドイツの安全保障」大使館国防武官
15	8.7	チター演奏会とワインの会/NEWS(沖縄に日独協会創設)	
16	10.20	講演会「イチョウとケンペル」とビール/「長井貞義展」に参加して	柴田松太郎・会員(古生物研究家)
17	12.20	ドイツ軍人追悼慰霊祭/「ドイツにおける日本年」と習志野の絆/バスハイク	「砂糖と健康」金谷誠一郎・専務理事
18	2001.5.2	年次総会開催/リューネブルク訪問記/協会初の料理教室案内	「21世紀と日独関係」ステュッカー公使
19	6.2	加藤吉昭会長逝去/大使ら弔文・弔辞/ふれあいクッキング開催	
20	8.10	横浜(塩水港精糖・東電)工場見学/東京ドイツ村誕生/ワイン紀行	
21	11.13	臨時総会・平尾浩三新会長選出/ドイツ人学生との筑波バスハイク	
22	2002.2.15	ドイツ軍人追悼慰霊祭/平尾会長の追悼の辞/ヴァルナー国防武官挨拶	
23	6.12	年次総会開催/「ドイツ人女子学生のHome Stayを紹介して」	「私の見た川端康成」M.ドゥッセル高山氏
24	8.20	チター演奏会/「ライブツィッヒ・ゲバントハウスと習志野第九」	
25	10.30	ビール祭り開催//講演「ギュツラフと我が国初の日本語『聖書』」	鈴木淑弘・常務理事
26	12.17	ドイツ軍人追悼慰霊祭開催/ドイツ人学生との親善バスハイク	
27	2003.4.19	ワインの話と試飲会/酒の種類について/ワインの楽しみ方あれこれ	
28	6.25	年次総会開催/講演「ゲーテ『ファウスト第一部』のヒロイン	東大名誉教授、作家、柴田翔氏
29	8.7	チター演奏会開催/「鳴門日独協会との親善交流会に参加して」	
30	10.18	ビール祭り開催/講演「ドイツの医療事情と教育システム」	松江美代子・日大歯学部助教授
31	12.14	第9回慰霊祭開催/大使館国防武官「追悼の辞」	
32	2004.3.4	新春講演会「2004年の国際情勢」/要旨	佐藤伸行・時事通信社デスク
33	6.25	年次総会開催/ワインを楽しむ会/講演:「日本におけるドイツ2005・2006」	ピュルシュル大使館二等書記官
34	9.1	チター演奏会開催/「第九の合唱に参加して」	
35	10.28	ビール祭りと講演会「59年を経て特攻を思う」	歌田實・理事
36	12.17	第10回慰霊祭開催/国防武官挨拶/初の「クリスマス会」開催	
37	2005.3.28	新春講演会「2005年の国際情勢」/常木實・協会顧問計報/	田久保忠衛・杏林大学客員教授
38	6.5	年次総会開催/平尾会長、ドイツから功労勲章一等功労十字章	「現在のドイツ事情」NRWJapanベッカー社長
39	8.15	講演会「短歌にみる9・11」/「マール・ワークショップ」開催	平尾浩三会長
40	10.15	ビール祭り開催/「ドイツに親しむ3日間」の日程、出演者など	
41	12.28	「ドイツに親しむ3日間」開催/同 特集1「宴のあと」	
42	2006.1.10	第11回ドイツ軍人追悼慰霊祭開催/「ドイツに親しむ3日間」特集2	
43	3.31	新春講演会「国際政治の本質と外交のウラ・オモテ」/「ドイツ・・・」特集3.4	石河正夫・明海大客員教授
44	7.5	年次総会開催/当協会ドイツ視察旅行/講演「東ドイツー今は昔」	橋口昭八・常任理事
45	8.25	対談「『バルトの楽園』よもやま話」開催/チター演奏会開催	
46	11.3	当協会創立10周年祝賀会開催/講演「ドイツ統一とその後」	木村敬三・元駐独大使
47	12.28	第12回ドイツ軍人追悼慰霊祭開催/写真展「ドイツと千葉県」開催	
48	2007.3.9	新春講演会「日本とドイツの哲学交流」/「ドイツ文学読書会」案内	尾田幸雄・お茶の水女子大名誉教授

号数	発行日	主 な 記 事	講演会(題)&講師
49	2007.6.22	年次総会開催/講演会「日独関係と日独協会の役割」/独日連合会総会報告	ゲーリック・大使館文化部長
50	8. 1	自衛隊習志野第一空挺団見学/「ドイツ文学読書会」(第三シリーズ)を終えて	
51	9. 28	チャター演奏会開催/グローバルフェスタChibaに出展/デュッセルドルフのタバ	
52	12.10	第13回ドイツ軍人追悼慰霊祭開催/講演会「EUの政治、経済の現況」	ロート独連邦議会議員
53	2008.4.15	新春講演会開催・「重粒子線によるがん治療」	平尾奏男・東大名誉教授
54	6. 7	年次総会開催/講演「千葉県の国際交流政策」/エルヴィン市長訃報	浜本憲一・千葉県国際室長
55	8. 8	講演会「ドイツ語のむずかしさ・おもしろさ」/「日本デー」参加報告	岩崎英二郎・慶大名誉教授
56	10.10	ドイツ人学生研修プログラム/ドイツ研修旅行・歌日記(抄)	
57	12.10	第14回ドイツ軍人追悼慰霊祭開催、ドイツ大使館武官挨拶	
58	2009.3.6	幕張で開催の全国日独協会連合会総会に向けた平尾会長のお願ひ	新春講演会「精密制御の世界」伊藤光昌氏
59	5.15	09年全国日独協会連合会年次総会開催/放射線医学総合研見学	
60	7.10	年次総会開催/09年ドイツ・デュッセルドルフ市日本デー開催	「20年後の鉄道システムについて」奥猛氏
61	9.10	講演会「ドイツ兵士の見たNARASHINO」(第一次大戦終了90年で)	星島幸・習志野市社教課長
62	11.10	「第3回グローバルフェスタChiba」に出展」/グローバルフェスタJapan2009	
63	2010.2.18	第15回ドイツ軍人追悼慰霊祭開催/新春講演会「ドイツ統一20周年」	大使館Dr.ブリント公使
64	4. 1	同 上「ドイツ統一20周年、政治、経済の動向」全文掲載	
65	6.15	年次総会開催・宗宮新会長、平尾名誉会長に	「治未癌・ウイルスからみた癌予防」丸山孝士医博
66	7.30	新旧会長ご挨拶/デュ市日本デー参加とハンザ都市などの旅	
67	10.12	第2回ドイツ人学生研修/「安曇野探訪・研修の旅」	
68	12. 1	第16回ドイツ軍人追悼慰霊祭開催/デュ市派遣研修生を迎えホームパーティー	
69	2011.2.1	「日独交流150周年」記念日独パートナー会議/10年夏来日研修生レポート	
70	4.15	「東日本大震災に寄せて」宗宮会長、義援金募集/「ポトルシッブ研」発足	
71	6. 3	年次総会開催/大震災義援金のお礼と報告/講演「ドイツ語の意味論」	千葉大名誉教授、宗宮好和会長
72	8.13	「日独150」記念講演会/「オイレンプルク伯の日本遠征」「外国語の効率的勉強法」	宗宮会長、清野千葉大准教授、ナンディ氏
73	9.30	「日独交流150(周年)」を振り返る(宗宮会長)	
74	12. 2	第17回ドイツ軍人追悼慰霊祭開催/菩提樹植樹祭/尾田幸雄氏訃報	
75	2012.2.4	「絆と『私にできること』」(宗宮会長)/御宿(菩提樹)植樹祭	
76	4. 6	新春講演会開催「M.エンデと21世紀」、「講演を聴いて」	子安美知子・早大名誉教授
77	7.14	年次総会開催/「デュ市日本デー参加と南西ドイツの旅10日間」	「ドイツの現在と展望」ヘルトマン大使館文化部長
78	9.14	ビール祭り開催/「いちかわドイツデー」に当会写真展出展	
79	11.14	親睦日帰りバス旅行～秋の房総巡り～/習志野ドイツフェア	
80	12.28	第18回ドイツ軍人追悼慰霊祭開催/クリスマス・忘年会	
81	2013.3.16	新春講演会開催「ドイツの『連邦制』と『三層構造』(州民、国民、欧州人意識)」	坂井榮八郎・東大名誉教授
82	6.16	年次総会開催/宗宮会長・新年度を迎えて/講演「レーザー光線って凄い」	渡部武弘・千葉大名誉教授
83	8. 2	「野村陽子先生とお弟子さんを囲む音楽会」開催/全国日独連合会総会	
84	10.11	ビール祭り開催/今後の催し案内	
85	12. 6	第19回ドイツ軍人追悼慰霊祭開催/市川ドイツデー～オクトバーフェスト	
86	2014.2.8	新春講演会開催「知っていそうで知らないノーベル賞の話」	ノーベル賞研究家、北尾利夫氏
87	4.12	親睦日帰りバス旅行～歴史の町・佐倉・四街道	
88	6.14	年次総会開催/講演「御宿町 五倫文庫の由来と活動」	伊藤良昌・五倫文庫理事長
89	8. 9	全独日協会連合会・独日A.NR創立50周年行事に参加して(橋口副会長)	
90	10.10	ビール祭り開催/Düsseldorf独日文化交流育英化等Japaner leben プログラム	
91	11.16	20周年を迎えるドイツ軍人追悼慰霊祭・慰霊祭特集(4頁、カラー化へ)	
92	12.13	協会主催20年・ドイツ軍人追悼慰霊祭開催/板東俘虜収容所研修旅行	
93	2015.2.14	協会初のホームステイ 会員4家族で/活発だったドイツ語講習会	
94	4.11	新春講演会開催「二つの大戦と日独関係」/講演要旨	黒川剛・(公財)日独協会理事
95	6.13	年次総会開催/全国日独協会連合会総会/講演「知られざる日独軍楽交流史」	谷村政次郎・日本スーザ協会会長
96	8. 8	「ドイツと日本を結ぶもの-修好150の歴史」開催/協会初の翻訳完成「J.Lührの体験」	
97	10.10	ビール祭り開催/デュ市奨学生らを招き「歓迎ホームパーティー」	
98	12.12	感動的なドイツ軍人追悼慰霊祭/バス旅行:H・ハムの技法を見る	
99	2016.2.13	新春講演会「難民とテロ-試練のドイツとヨーロッパ」ドイツ語講習会初の女性講師	イエーガー・大使館二等書記官



ウルムの *Muß i' denn* ムシデン



吉田 千賀子

その時、私は胸の高まりを抑えきれずに日比谷公会堂の舞台に目を凝らしていました。1957(昭和32)年11月5日。ベルリンフィルを率いて初の日本公演に来たカラヤンが万雷の拍手の中、登場してきました。引き締まった顔。黒い服に細身の体を包み、颯爽とした姿に思わずため息が出ました。後に「楽団の帝王」と言われた風格がすでに漂っていました。ワグナーの「ニュルンベルクのマイスタジンガー」の演奏が始まる。重厚な弦楽器、高らかに響く管楽器……。

大の音楽好きな兄夫婦たちと徹夜で手にした前売りの切符。1500円位でしたか。今なら3-4万円くらいでしょうか。若い私のお給料では思い切った出費でした。でも「本場の音楽だ」「これが日本と同じ敗戦国か」。指揮者と団員一体となったダイナミックな演奏に鳥肌が立つような感動が身体を包みました。私が「本物のドイツ」に初めて出会った瞬間でした。

歳月が流れ、50の坂を越えた私に突然、ドイツ訪問の話が飛び込みます。ウルム管弦楽団のファゴット奏者で、「音楽草の根運動」を推進されていた杉本暁史(さとふみ)氏から「ウルム、ボン両市の合唱団と交流コンサートをしませんか」と。1987(同62)年でした。青木八郎先生や私が所属していた「こぶしの会」、仲間の合唱団とともに40人編成で、その年の6月にドイツへ向いました。

アインシュタインが生まれたウルム。完成に500年もかかった大聖堂、色彩豊かなフレスコ画の市庁舎。それは、それは美しい街でした。全員が和服姿の女声合唱団という前評判が高く、3-400人くらいでしたか、市民が本番前からホールに押し寄せてリハーサルもままならない。私たちは「お江戸日本橋」などを、現地の混声や児童の合唱団と歌い合いました。歓迎パーティーのあと、皆、舞台を共にしたドイツ人宅に分散して宿泊です。私は2人でハンネローレ・レオポルドさんのお宅へ。お互いに日独語がダメ。小学生の坊やと英語で辛うじて気持ちを伝え合いました。



<1987年6月、ウルムの多目的ホールで>

翌日曜日は、大聖堂のパイプオルガンを聴いて大感激。前夜の合唱仲間たち20人くらいがボンへ発つ私たちを見送りに来てくれました。バスのある広場で、肩を組んであの“*Muß i' denn, muß i' denn*……”の合唱です。私たちは“さらば、さらば……”と日本語で。言葉は違ってもハーモニーはピッタリ。みんな、涙が止まりませんでした。*Musik kennt keine Grenze!* ハンネローレさんとは今でも手紙のやりとりをしています。東北大震災では、随分と心配してくれました。

協会に入会したお蔭で新たな驚きが私を待っていました。日比谷で聴いたベルリンフィルは、ドイツが戦後初めて日本に派遣した文化使節だったことを知ったのです。1940(昭和15)年の東京五輪と合せて予定され、第二次大戦で幻に終わった演奏会が実現されたのでした。私は偶然にも日独交流の歴史的瞬間に立ち会えたのです。半世紀前の感動と興奮、ウルムの友人と音楽。私は「ドイツ」と出会えた幸せを改めて噛みしめています。

ドイツに関する書籍の紹介



当協会で開催した(04年3月)時事通信社の佐藤伸行氏が著した「世界最強の女帝メルケルの謎」(文春新書 本体¥780+税)。

メルケルが政治家になって20年。首相で8年経っても「謎」が多いという。牧師の娘として東ドイツで育った軌跡を辿りながら、コール元首相など後見者を次々に蹴落とす魔女の“おやじキラー”、執務室にドイツ出身のエカテリーナ大帝の肖像画を飾るマキャベリスト。米中ロシア、そして「メルケル化した欧州」をどうリードするのか。本書はユニークな人物月旦書であり、ドイツ現代史でもある。(M.T.)

「森と山と川でたどるドイツ史」

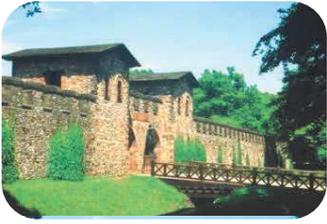
(池上俊一著 岩波ジュニア新書 本体¥880+税)



ドイツの起源から現代まで、それぞれの時代の政治、社会、文化、宗教が自然環境にどう結びついて来たか、史実、人名、地名等を交えて具体的に解説している。

その中で、近代ドイツ人の精神や生活態度がいかにより自然の大地と深く関わり、自然と一体化した文化を重んじるようになったか、を地図と写真も添えて年代順に示している。第1章から7章で構成されているが、最終章の「経済大国からエコ大国へ」まで読み進むころには、環境先進国ドイツの魅力に引き込まれ、国民レベルのエコ好き、自然好きが環境対策を支え世界に範を示していることを知らされる。(志賀 久徳)

協会創立20周年記念 **ドイツ研修旅行 実施へ**



<見学するリーメス>

5月20日から29日まで8泊10日で計画されている「デュッセルドルフ・日本デーと古城街道を往く」の旅行参加者は27（会員11、家族・友人16）人

になった。ローマとゲルマンの“国境”とされたリーメスが復元された「ザールブルク砦」をはじめ、ゲーテが戯曲に描いた“鉄の手”の城、ケルト以前からの塩の町シュヴェービッシュ・ハル、オーバーフランケン地方のバンベルク、クルムバッハの修道院など古いドイツの面影豊かな町や村を往く。

恒例の事前勉強会は、下段一覧表の通り。

参加自由 大募集
魅力的な事前勉強会（参加費 ¥1000）

◆ドイツ研修旅行事前勉強会

回	月日	時間	場 所	内 容 等	講 師 (予 定)
1	4/11 月	15:00	船橋市中央公民館・音楽室	・当協会会長、旅行団团长挨拶	宗宮好和会長、橋口昭八副会長
		15:10	=船橋市本町 2-2-5	・旅行説明	近畿日本ツーリスト
		15:50	電話: 047-434-5551	・「千葉県とデュッセルドルフ」	千葉県総合企画部国際課
				・デュッセルドルフ日本デー & 当会と独日協会アム・ニューダーライン	橋口团长(旅行委員) 杉田房之・旅行委員
		16:00	〃	休 憩	
		16:15	〃	・「ドイツ音楽への誘いーワグナー」	土屋有里・聖徳大兼任講師(当協会員)
		17:45	〃	(終了)	櫻井良子・共立大非常勤講師
2	4/21 木	15:00	同中央公民館・第八集会室	・「ローマとゲルマン&リーメス」	田中正延・旅行委員
		16:00-18:00		・旅行の見どころ	橋口、二見理一・旅行委員
3	4/28 木	15:00	同中央公民館・第二集会室	・「中世への旅ー騎士と城」	平尾浩三・東大名誉教授(当協会名誉会長)
4	4/28	17:00	「和民」船橋南口店=船橋市	・懇親会	小野浩、須古正恒、橋口、
		19:00	本町1-7-6ドリーム船橋ビル3F 電話:050-7302-0816		二見・各旅行委員

◇これからの催し

催しもの	開催日	時間	場 所	内 容 等
年次総会	4/23 土	14:00	船橋グランドホテル	議題: 2015(平成27)年度事業報告(案)、同決算報告(案)、
		~	JR船橋駅北口から徒歩約1分	2016(平成28)年度事業計画(案)、同収支予算(案)、
		15:00	電話:047-425-1121	その他
総会記念講演会		15:00		講師: 木戸裕氏(当協会員、前国立国会図書館専門調査員)
		~16:00		演題: 「ドイツ大学改革の今」
懇 親 会		16:10		参加費用: ¥5800/1人

■ドイツ演奏旅行に出発

県立千葉女子高オーケストラ部

協会主催の「ドイツ軍人慰霊祭」に演奏参加している県立千葉女子高のオーケストラ部が3月末、

ドイツへ発った。山岡健先生はじめ、生徒74、父母ら総勢104人で、今年で9回目。4月2日ニュルンベルクなどで演奏するほか、バッハ、シューマンらが活躍したライブチヒ、パイロイトなどでクラシックの本場で「表現力を学び」、交流を深めている。

編集後記

◆本誌発行100号記念!! 会員の皆さまと、心からお祝いしたいと思います。創刊時の南部擁司氏、とくに、15年以上も誌面を作り続けられた金谷誠一郎氏のご労苦に衷心より感謝したいと思います。この4月号で特集した3、4頁には、協会と会員の活動が詰まり、そのまま凝縮された歴史になっています。表裏1枚で保存用の記録としてもお使いいただけます。10月の協会創立20周年の記念式典に向けて多くのイベントが企画されています。会員が心を合せて、私たちの「歩み」を顧みつつ、明日に繋げたいと念じます。◆今回は2冊の著書を紹介しました。たまたま編集部の目にとまった本ですが、会員が知る「ドイツ(語圏)」に関する著書、音楽、演劇、絵画、スポーツなどの情報、イベントを編集部、事務局にお寄せいただきたいと思います。そうした誌面も充実して、本誌がさらなる会員交流の場になれば、と願っています。(M.T.)